

株主の皆さまへ

第56期 報告書

2009年4月1日～2010年3月31日

社長メッセージ

株主の皆さまに第56期報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当期における当社グループの経営は世界的大不況の中、売上高は対前年比4割減、経常損益は会社発足以来最悪の20億円の赤字となるなど極めて厳しいものとなりましたが、下期に入って赤字幅はかなり縮小、年度末にはほぼ収支トントンまで改善されてきました。2010年度は3期ぶりの黒字を確実なものとするため、引き続きコスト削減に努めるとともに、高収益が見込まれる産業分野・商品・サービスに一層力を入れて取り組んでいきたいと考えております。

世界の景気動向を見ると、ユーロ安やドル安による円高傾向が日本の輸出産業に影響を与えることが懸念される一方、中国・インドを中心とするアジア地域は着実な経済成長を続けており、地理的・文化的条件で優位にある日本はその恩恵が期待されます。

世界的な景気回復は資源価格の高騰を招き、多くの原料を輸入に依存する日本のメーカーは製品価格の値上げに踏み切ることが確実で、ステンレスメーカーも例外ではありません。このことがメーカーとユーザーとの間に立ち、双方のニーズの調整を担うことで機能を果たしている当社を「板挟み状態」にしないとも限りませんが、考えてみれば、もともとこの「板挟み」の空間こそ私たち流通業者の生きる場所なのです。

当社は今年度から中期経営計画とも言うべき「『志』登頂計画」をスタートさせ、流通業の悲願となっている、過度に外部環境に左右されない安定した収益構造への転換を、社員の意識改革を同時に図りながら、達成したいと考えておりますので、今後とも株主の皆さまのご支援を賜りたく、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

2010年6月

代表取締役社長 押本 俊明



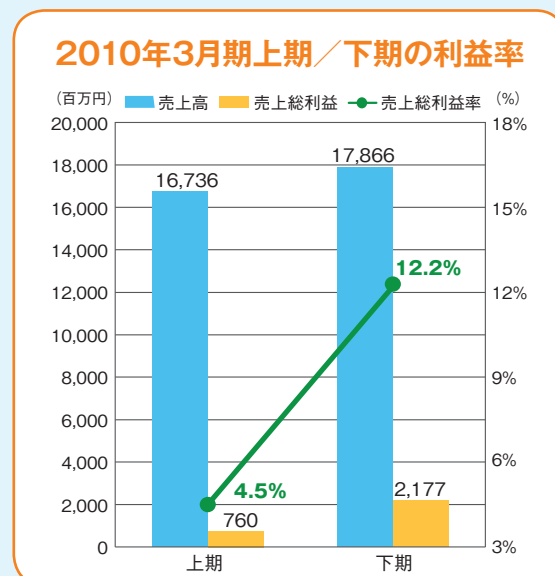
社長インタビュー

Q ステンレス業界の市場環境とUEXへの影響について教えてください。

リーマンショック以降、大幅に悪化した景気の影響は、当社事業の中核であるステンレス鋼販売に大きなダメージを与えました。私どもステンレス流通業者は、低迷する需要とは裏腹に、仕入価格の上昇という板挟み状態にさらされ、非常に過酷な状況を強いられています。消費財は電機や自動車産業向けに持ち直しの動きが出てきたものの、生産財向けを中心とする当社にとっては、低調に推移したままの設備投資の影響が大きく、まだ低迷の域を脱したとはいえません。一方で、ステンレスの原材料価格に目を向けると、鉄鋼の主原料である鉄鉱石、石炭の価格が高騰しているほ

か、ステンレス製造に欠かせないニッケルの価格も上昇が目立つようになりました。国内ステンレスメーカーは原材料価格の上昇を吸収しきれず価格に転嫁したため、私ども流通業者にしわ寄せが来ているというのが実情であります。しかしながら、経済のボーダーレス化が進む中で、国内だけではなくアジア全体で市場をとらえた場合、いずれマーケットが回復することは確かといえます。当社としては、その回復スピードや回復の幅を見越しながら、今後の成長に向けての布石を着実に打つための準備を進めています。

(図1)



2010年3月期の売上総利益率は、下期に大幅に改善いたしました。

Q 業績についてお聞かせください。

当社の設立以来、史上最悪といっても過言ではない極めて過酷な市場環境にさらされた結果、2010年3月期の連結売上高は34,602百万円となり、前期に比べ37.0%減少する非常に厳しい結果となりました。

特に上半期は需要が急激に冷え込む中で、同業他社との競争激化による販売価格の下落局面に見舞われました。大幅なコストダウン策により販売費及び一般管理費を前期に比べ766百万円抑制できたものの、通期の営業損益は1,966百万円の損失、経常損益は2,030百万円の損失、当期純損益は1,941百万円の損失となりました。

このように利益面での大幅な落ち込みを強いられましたが、下半期に入り赤字幅は徐々に縮小し、売上総利益率が下半期には12.2%と、上半期の4.5%から大幅に改善しました(図1)。まだ力強さこそ感じられないものの、仕入価格の上昇が一段落したことやコスト切り下げ策の浸透効果が表れ始めたことで景気は底を打ち、回復に向う兆しが出てきました。今後はユーザーのニーズを的確にとらえた供給体制をより強固にすることで回復局面にある販売価格の維持に努め、業績の向上にまい進してまいります。



Q 2010年4月を起点とする中期経営計画 = 「『志』登頂計画」についてご説明ください。

私どもはUEXのあるべき姿を再確認し、2008年4月に「UEXの志」という形で企業理念を定め、会社が目指す方向性を従業員へ周知し、ビジョンの共有を図ってきました。そこで今度は「UEXの志」を山の頂上に例え、どのように頂きを目指すのかを示す「『志』登頂計画」を中期経営計画として策定しました。つまり「志」の具体化について社員自らが考え、実行に移すことで3年後のUEXの変革を目指すというものです。社員のこの自主的な活動を「YD活動」と名付けました。

「『志』登頂計画」では、外へ向けた改革と内部の改革の2つの構造改革を融合させ、山の頂上を目指します。外へ向けた改革として、過度に外部環境に左右されない強靱な体質の構築、内部では、社員一人ひとりが当事者意識を持つ自律的組織運営の構築を目標にしています。外へ向けた改革の具体的な課題として、①直需向け営業の強化、②高付加価値化の推進、③海外事業の強化を掲げ、安定的な収益構造の構築を図ります。

1つ目の「直需向け営業の強化」では、現在ほぼ同比率である直需向けと同業の流通業者向けの販売比率を直需向けに力点を移すことを狙いとしています。これにより、実需とかい離れた流通業者向けの仮需の影響をできるだけ少なくし、採算が安定する直需販売へのシフトで安定的な利益の

確保を目指します。また、ダイレクトにお客さまの情報を得ることができる直需の強化により、お客さまのニーズを的確にとらえた提案が可能になり、CS（顧客満足）の向上を図ります。2つ目の「高付加価値化の推進」は、加工分野に踏み込んだ川下展開を指します。特に人材面においてUEXとしての独自性を発揮する技術・ノウハウの蓄積に力を入れる方針です。当社がこれまで子会社化した9社の約半数は、付加価値の向上を目指した技術・ノウハウの集積を目指したもので、グループ力の強化に大きく貢献しています。3つ目の「海外事業の強化」ですが、国内需要が伸び悩む中、中国など成長性の高い海外市場の開拓を視野に入れています。直接的な海外展開だけではなく、海外進出を積極的に行っている取引先の開拓や既存顧客との関係強化により、国内ユーザーの海外展開に貢献する間接的な海外事業強化にも力を入れる方針です。これにより、現在総売上高の8%程度である海外関連売上高比率を早期に2ケタへ向上させたいと考えています。私たちはこの厳しい時期を体質強化のチャンスととらえ、あえて山を登り始めることで抜本的な改革に向けて真正面から取り組んでまいります。

「『志』登頂計画」の骨子

外部環境に過度に左右されない 安定的な収益構造の構築

- ① 直需販売の強化
- ② 高付加価値化の推進
- ③ 海外事業の強化

融合

社員の当事者意識に基づいた 自律的組織運営の構築

- ① 当事者意識・主体性の発揮
- ② 協働・育成の文化形成
- ③ グループ企業間の有機的連携の強化

Q 最後に株主・投資家の皆さまへ メッセージをお願いします。

2010年3月期は、過去に経験をしたことのないような景気悪化の影響で史上最悪の大幅な赤字を計上してしまいましたが、配当につきましては株主の皆さまの日頃のご支援に少しでも報いるべく1株につき2円の期末配当を実施させていただきます。ステンレス流通業界を取り巻く環境は厳しい状況が続いていますが、すでに最悪期は脱しており、私どもは安定的な利益を確保するための新たな一手を打ち、力強い企業に向けて全社一丸となってチャレンジしていく所存です。今後とも未永いご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

事業の概況

当期におけるわが国経済は、一昨年後半のリーマンショック以降大幅に悪化したあとの回復途上にあつたといえますが、分野別に見れば、輸出や消費財などは着実に持ち直してきているものの、当社の主要需要先である設備投資や建設などは低調に推移したままで、景気回復には跛行性がありました。

当社企業集団の連結業績は、中核であるステンレス鋼その他金属材料の販売事業において、設備投資の減少と在庫調整が重なったことに加え、業界の過当競争もあって採算が悪化したため、過去最悪の経常損失となりました。

このような状況から、売上高は前期に比べ37.0%減少の34,602百万円となりました。利益面では、売上総利益率が下期には12.2%と、上期の4.5%から大幅に改善しましたものの、売上総利益は2,938百万円と前期に比べ50.2%減少しました。これに対し、給与・役員報酬、賞与のカットによる人件費の抑制や配送ルートの見直しによる運搬費の削減など全ての経費に対する削減に取り組み、販売費及び一般管理費を4,903百万円と前期比13.5%抑制しましたが、売上総利益の減少を補えず、営業損益は1,966百万円の損失(前期は235百万円の利益)、経常損益は2,030百万円の損失(前期は26百万円の利益)、当期純損益は1,941百万円の損失(前期は276百万円の損失)となりました。

ステンレス鋼その他金属材料の販売事業

ステンレス鋼の販売数量が前期に比べ約15%減少、販売価格が前期に比べ約25%下降したことなどにより、売上高は前期に比べ36.7%減少の33,293百万円となりました。営業損益は売上総利益の減少により1,778百万円の損失(前期は110百万円の利益)となりました。

ステンレス鋼その他金属加工製品の製造・販売事業

建築分野での需要の落ち込みと、期前半の自動車部品関連における在庫調整の影響により、売上高は前期に比べ24.6%減少の658百万円、営業損益は36百万円の損失(前期は1百万円の損失)となりました。

機械装置の製造・販売及びエンジニアリング事業

食品関連を中心とした設備投資の見直しや先送りの影響により、売上高は前期に比べ56.1%減少の651百万円、営業損益は193百万円の損失(前期は72百万円の利益)となりました。

セグメント別会社一覧

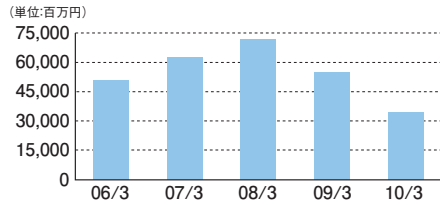
(単位：百万円)

事業区分	会社名	資本金	出資比率(%)	売上高		事業内容
				10/3実績	09/3実績	
ステンレス鋼などの販売	UEX(当社)	1,512	—	33,411	52,887	ステンレス鋼などの在庫加工販売
	UEX管材	12.8	79.4	832	1,305	鋼管、鋼材、継手類の販売
	日進ステンレス	20	100	604	1,142	半導体装置用ステンレス鋼管の販売事業
	ナカタニ ^(※)	10	33.6	1,846	2,048	鋳造品・鍛造品・機械部品などの設計・加工
	SPEX ^(※)	10,000千NT\$	40	5.8百万NT\$	0.8百万NT\$	チタン展伸材などの輸入販売
加工製品の製造・販売	ステンレス急送	10	100	344	394	貨物自動車運送業
	大崎製作所	15.5	100	606	750	有圧換気扇ウェザーカバーのOEM生産
機械装置 エンジニアリング	上海UEX	1,520千US\$	100	4.8百万円	9.6百万円	鋼管加工製品の製造・販売
	上野エンジニアリング	60	90	584	1,250	一般産業用機械装置の設計・製作
	三益UEX	10	100	221	430	鋼管製造用機械の製造・販売

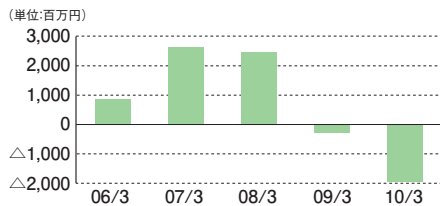
(※)は持分法適用会社

財務セクション

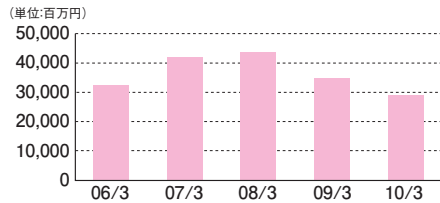
連結売上高



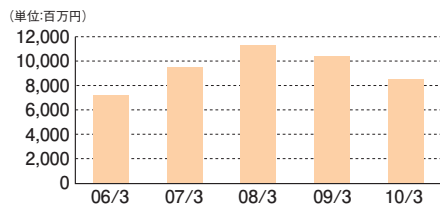
連結当期純利益



総資産



純資産



連結財務諸表の要旨

連結貸借対照表

単位：千円

	第56期(当期) 2010年3月31日現在	第55期(前期) 2009年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	19,190,279	25,385,970
固定資産	9,675,885	9,465,836
有形固定資産	7,112,366	7,280,969
無形固定資産	320,806	234,476
投資その他の資産	2,242,713	1,950,391
資産合計	28,866,165	34,851,806
【負債の部】		
流動負債	17,606,035	21,445,856
固定負債	2,728,893	3,050,851
負債合計	20,334,928	24,496,707
【純資産の部】		
株主資本	6,957,049	8,922,374
資本金	1,512,150	1,512,150
資本剰余金	1,058,008	1,058,008
利益剰余金	4,391,377	6,356,702
自己株式	△ 4,486	△ 4,486
評価・換算差額等	1,546,103	1,389,707
その他有価証券評価差額金	278,510	121,590
繰延ヘッジ損益	608	303
土地再評価差額金	1,291,815	1,291,815
為替換算調整勘定	△ 24,829	△ 24,001
少数株主持分	28,084	43,019
純資産合計	8,531,237	10,355,100
負債・純資産合計	28,866,165	34,851,806

連結株主資本等変動計算書

単位：千円

第56期(当期) 2009年4月1日～2010年3月31日	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定			評価・換算 差額等合計
2009年3月31日残高	1,512,150	1,058,008	6,356,702	△ 4,486	8,922,374	121,590	303	1,291,815	△ 24,001	1,389,707	43,019	10,355,100
連結会計年度中の変動額												
剰余金の配当			△ 23,955		△ 23,955							△ 23,955
当期純損失(△)			△ 1,941,370		△ 1,941,370							△ 1,941,370
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						156,920	305		△ 828	156,396	△ 14,934	141,462
連結会計年度中の変動額合計			△ 1,965,325		△ 1,965,325	156,920	305		△ 828	156,396	△ 14,934	△ 1,823,863
2010年3月31日残高	1,512,150	1,058,008	4,391,377	△ 4,486	6,957,049	278,510	608	1,291,815	△ 24,829	1,546,103	28,084	8,531,237

連結損益計算書

単位：千円

	第56期(当期) 2009年4月1日～ 2010年3月31日	第55期(前期) 2008年4月1日～ 2009年3月31日
売上高	34,601,900	54,959,652
売上原価	31,664,295	49,055,170
売上総利益	2,937,605	5,904,482
販売費及び一般管理費	4,903,191	5,669,175
営業利益又は営業損失(△)	△ 1,965,586	235,307
営業外収益	159,913	115,962
営業外費用	223,926	324,833
経常利益又は経常損失(△)	△ 2,029,598	26,436
特別利益	41,663	79,981
特別損失	2,982	163,549
税金等調整前当期純損失(△)	△ 1,990,917	△ 57,132
法人税、住民税及び事業税	20,885	73,948
法人税等調整額	△ 56,026	140,516
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 14,405	4,376
当期純損失(△)	△ 1,941,370	△ 275,972

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：千円

	第56期(当期) 2009年4月1日～ 2010年3月31日	第55期(前期) 2008年4月1日～ 2009年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	593,686	271,493
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 266,991	△ 720,902
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 223,822	△ 17,939
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,321	△ 15,141
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	105,195	△ 482,489
現金及び現金同等物の期首残高	1,912,314	2,394,803
現金及び現金同等物の期末残高	2,017,509	1,912,314

※記載金額は、千円未満を四捨五入表示しております。

YD活動

当社は2010年4月を起点とし2013年3月を期限とする『志』登頂計画』をスタートさせました。これは、2008年4月に制定した当社の企業理念「UEXの志」の実現を最終目標とした、向こう3年間の中期経営計画とも言うべきものです。ただし、中期経営計画と言っても、具体的な売上目標や利益目標を定めることはあえてしませんでした。それよりも大事なことがあると考えたからです。

当社は過去数年間、外部の経営環境の変化によって業績が大きく左右されました。資源高の追い風によって史上最高の収益を上げた2006-2007年度から、リーマン



ショックによる世界同時不況の影響で一転、2008-2009年度は赤字計上を余儀なくされました。どの企業でもある程度外部の経営環境により業績が左右されるものですが、当社の置かれているステンレス流通業界はその程度が余りにも大きく、自分たちの経営努力の限界を超えてしまうことがしばしばありました。私たちは自分たちの経営努力が、全部は無理でもある程度業績に反映できるように、確固たる収益基盤を構築するにはどのようにしたら良いかを考えてきました。

『志』登頂計画』ではふたつの構造的改革に取り組みます。ひとつは、当社の業績が過度に外部環境に依存している収益基盤の改革です。もうひとつは、社員の当事者意識を高め自律的に組織運営ができる企業風土に改める取り組みです。前者で具体的にテーマとして掲げたのは、直需販売の強化、高付加価値化の推進、海外事業の強化です。また後者の課題は、当事者意識・主体性の発揮、協働・育成の文化形成、グループ企業間の有機的連携の強化です。これらの全社的テーマを受けて、各職場が少人数からなるチームを編成し、それぞれが身近



な業務に関連づけながら自ら課題を設定し、解決に取り組むのがYD活動です。

YDは「やれば、できる」からネーミングしました。当社の社員ひとりひとりが当事者意識を持って課題に取り組むため、職場で編成されたチーム内で、積極的に発言・行動し、役割を明確にします。ロードマップを作成し、決められたテーマごとに期限をつけて解決策を見つけます。日常業務に関連した改善・改革にとどまらず、組織として、集団として、全社的目標の実現に向かって具体的行動を起こし、成果を皆で共有していくのがYD活動の基本です。

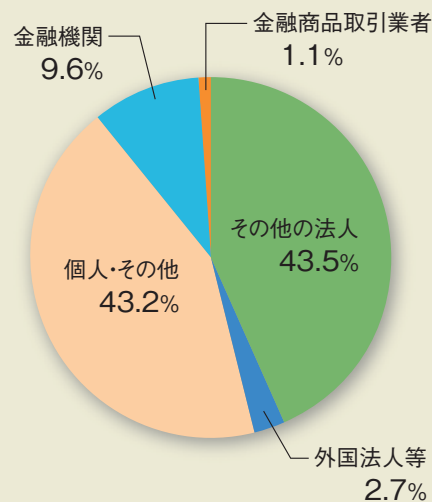
株式の状況 (2010年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 36,000,000株
- 発行済株式の総数 12,000,000株
- 株主数 3,081名
- 大株主

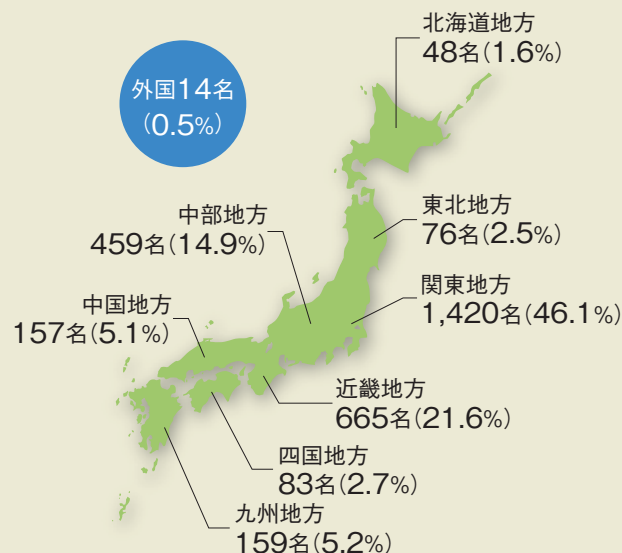
株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
株式会社メタルワン	1,708千株	14.3%
住友商事株式会社	1,200千株	10.0%
新日鐵住金ステンレス株式会社	696千株	5.8%
株式会社みずほ銀行	548千株	4.6%
上野竹枝	393.1千株	3.3%
UEX社員持株会	387.3千株	3.2%
三井物産株式会社	368千株	3.1%

※出資比率は、自己株式を控除して計算

所有者別株式分布状況



地域別株主分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
定時株主総会基準日	毎年3月31日
期末配当基準日	毎年3月31日
中間配当基準日	毎年9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂 七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	株式会社大阪証券取引所 ジャスダック市場
公告の方法	東京都において発行する日本経済新聞 当社は、貸借対照表ならびに損益計算書を当社ホームページに掲載いたしております。 http://www.uex-ltd.co.jp/

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

会社概要 (2010年6月25日現在)

社名 株式会社UEX
 英文商号 UEX, LTD.
 設立 1955年1月14日
 代表者 押本 俊明
 資本金 15億1,215万円
 従業員数 314名 (2010年3月31日現在)
 主要販売先
 (株)東芝
 (株)IH
 (株)荏原製作所
 新日鉄エンジニアリング(株)
 三菱重工業(株)
 主要仕入先
 (メーカー)
 新日鉄住金ステンレス(株)
 新日本製鐵(株)
 住友金属工業(株)
 大同特殊鋼(株)
 山陽特殊製鋼(株)
 愛知製鋼(株)
 (商社)
 (株)メタルワン
 住友商事(株)
 三井物産スチール(株)
 NSステンレス(株)

本社 〒140-8630
 東京都品川区東品川2-2-24
 天王洲セントラルタワー 5F
 TEL 03(5460)6500
 FAX 03(5460)6409
 大阪支店・大阪配送センター
 九州支店・九州配送センター
 北陸支店・北陸配送センター
 東北支店・東北スチールサービスセンター
 名古屋営業所・名古屋配送センター
 東海営業所
 三島スチールサービスセンター
 第一伊勢原スチールサービスセンター
 第二伊勢原スチールサービスセンター
 東京配送センター

役員
 名誉会長 小田 保中
 代表取締役社長 押本 俊明
 常務取締役 岸本 則之
 常務取締役 本田 純一
 取締役 石松 陽一
 取締役 岡崎 誠一郎
 取締役 水野 隆司
 執行役員 千葉 正夫
 執行役員 伊海 嘉一
 執行役員 勝賀瀬 崇
 常勤監査役 藤井 誠
 常勤監査役 板倉 忠義
 監査役 小川 秀史郎
 監査役 松本 光史



UEX 検索

<http://www.uex-ltd.co.jp/>



〒140-8630 東京都品川区東品川2-2-24
 Tel.03-5460-6500 Fax.03-5460-6409